



# Lib. Letter

2009 Autumn [9～11月]季刊

平成21年9月30日 通巻 第17号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

埼玉県のマスコットコハトン

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

## 渋沢栄一の理念 ～論語処世訓～

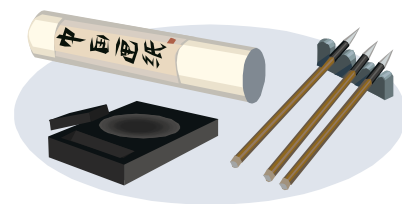
渋沢栄一は“日本近代経済社会の父”と呼ばれ、「埼玉ゆかりの三偉人」としても知られています。2009年は渋沢栄一が団長を務めた渡米実業団による民間外交100周年にあたります。

幕末から明治維新という動乱の時代の中で、幕末は徳川慶喜の家臣として仕え、明治維新後には新政府の財政整備に貢献した後、民間の実業家として産業、教育、福祉、民間外交と多方面で活躍した渋沢栄一。その基本理念には幼少の頃から親しんだ『論語』の精神がありました。彼は『論語』を座右の書、人生の指南書として愛読したといわれています。

今回は、そんな渋沢栄一と論語にまつわるエピソードや、思想についてご紹介いたします。

### ■ 渋沢栄一の受けた教育

渋沢栄一（幼名「市三郎」）は天保11年（1840年）現在の深谷市ちあらいじま血洗島の農家に生まれました。几帳面かつ勤勉家だった父市郎右衛門から、学問（漢学）の手ほどきを受けます。物覚えの良かった栄一は、一年余りで孝経・小学・大学・中庸と進み、論語に至ります。7歳になると従兄の尾高惇忠おだかじゆんちゆう（雅号「藍香」）に師事し、論語を中心とした漢学の書物のほか、日本外史などの日本史に関する書物も学ぶことになりました。



尾高の教育は従来の漢学者とは異なるユニークなものでした。例えば、読書については「自分の面白いと思うものから、また、必ずしも机の上でなくても、耕作の合間でも、寝ていながらも、道を歩きながらも、自分の気の向いた時に読むのが一番よい。ただ、漠然と読むのではなく、心をとめて読むようにすれば、知らず知らずのうちに読書力がついて、難しいものも読めるようになる」と語っています。このようなんびりした、しかし自主的に学習することを重視した教育方針は、栄一の知識欲を助長し、向上心を大いに刺激したようです。



### 知っていますか？（1）～論語の里～

栄一は、幼少の頃から『論語』を学び、生涯を通して論語に親しみました。初め父親の渋沢市郎右衛門に論語を学びましたが、7歳頃からは10歳年上の学者で従兄の尾高惇忠に習うようになりました。栄一が惇忠の家に通った道は、「論語の道」と呼ばれるようになりました。この「論語の道」周辺には、栄一にゆかりのある史跡等が数多く残されていることから、これらは総称して「論語の里」と呼ばれています。



(写真：深谷市所蔵)

## ■ 道德経済合一説

幕末の動乱の中で、栄一は元治元年（1864年）に一橋（徳川）慶喜の家臣となりました。慶応3年（1867年）には、ナポレオン3世の開くフランス・パリ世界大博覧会に将軍の名代として招待参加した徳川慶喜の弟、徳川昭武（当時14歳）の庶務・会計係として随行します。このヨーロッパ視察で、最新の文明を目の当たりにしました。

明治元年（1868年）11月に帰国した後、日本で最初の合本（株式）組織「商法会所」（のちに「常平倉」と改名）を設立します。翌年には明治政府の高官大隈重信の説得で大蔵省に出仕し、国家財政の確立に取り組みましたが、官界の硬直した体制に限界を感じた栄一は大蔵省を4年で辞職します。以降は実業界へ転進し、各種産業の育成と多くの近代企業の確立に努めました。第一国立銀行（のちの帝国銀行）をはじめ設立に関わった企業は500余りに及びます。

“近代日本経済の父”とも呼ばれる渋沢栄一の生涯を通しての基本理念は「論語」の精神（忠恕のこころ=まごころと思ひやり）にありました。日本経済の発展においては、利益追従をめざす経済行為の中にも道德が必要であるとする「道德経済合一説」を唱えました。

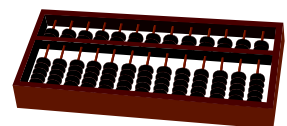
商業に従事する人は、宜しく此の意義を誤解せず、公益となるべき私利を営んでもらいたい。これやがて一身一家の繁栄を来すのみならず、同時に国家を富裕にし、社会を平和ならしむに至る所以であろう

出典：『渋沢栄一：民間経済外交の創始者』木村昌人／著 中央公論社 1991

## ■ 論語と算盤

栄一が実業の世界に入った当時はまだ士農工商の階級意識があり、実業は賤しむべきものとする風潮が根強く残されていました。一方、論語は当時の最高の道德規範であり、それと実業は全く相反するものとされていたのです。

しかし、栄一は実業は決して賤しいことではないし、正当な手段での富の追求は決して恥ずべきものではなく、むしろ奨励すべきことであるとし、「論語と算盤（富の追求）は矛盾するものではなく、経済と道德は十分に調和していけるものである」と主張します。



論語といふものと算盤といふものがある、是は甚だ不釣合で、大變に懸隔したものであるけれども、私は不断に此の算盤は論語に依って出来て居る、論語は又算盤に依って本當の富が活動されるものである、故に論語と算盤は、甚だ遠くして甚だ近いものである

出典：『論語と算盤』渋沢栄一／述 梶山彬／編 国書刊行会 1985

## ■ 渋沢栄一の読書論

栄一がその思想を著している資料に『青淵百話』があります。文字通り彼の人生観、処世訓、評論、考見等を「百話」集めたもので、「公生涯と私生涯」「益友と損友」「口舌は福禍の門」「論語と算盤」「就職難善後策」「健康維持策」「吾が生涯の悔恨事」など多岐にわたって人間性の溢れる「話」が収められています。

その中の一話「読書法」は、○古人の好教訓、○二様の読書法、○読書の時間、○書物の選択、○精読と多読の5つの内容から成り、彼の読書論が述べられています。

ここで栄一は、読書の要は「心記」（読んで心に残ること）にあり、読む人の立場によってそれぞれの要求を満足させるように読書すべきことを説いています。「折々に遊ぶいとまはある人の、いとまなしとして文読まぬかな」という古歌をひきながら、自分は寸暇でもあれば机上に山なす本を読むようにしているといいます。そして、『論語』の「これを知るものはこれを好むものに如かず、これを好むものはこれを楽しむことに如かず」を援用しながら「楽しんで読む」ことも確かに読書法の一要目であろうといっています。



### 知っていますか？（2）～雅号「青淵」の由来～

栄一の生家である「<sup>なかんち</sup>中の家」の近くに「<sup>かみのふち</sup>上の淵」と呼ばれる青々とした深い淵があったことにちなみ、雅号を「青淵」と称したとされています。

## ■ より詳しく知りたい方へ ～県立熊谷図書館にある関連の資料～

- ・ 『近代の創造：渋沢栄一の思想と行動』 山本七平／著 PHP研究所 1987 【書庫 289/シ/】
- ・ 『渋沢栄一：「道徳」と経済のあいだ』 見城悌治／著 日本経済評論社 2008 【公開 289.1/シ7001】
- ・ 『渋沢栄一：民間経済外交の創始者』 木村昌人／著 中央公論社 1991 【公開 S289/シ/】
- ・ 『渋沢栄一翁』 白石喜太郎／著 刀江書院 1933 【公開 S289/シ/】
- ・ 『渋沢栄一翁の論語処世訓』 片山又一郎／著 評言社 1973 【公開 S289/シ/】
- ・ 『渋沢栄一訓言集』 渋沢栄一／[著] 渋沢青淵記念財団竜門社／編 国書刊行会 1986 【公開 SA15/シ/】
- ・ 『処世の大道』 渋沢栄一／著 実業之世界社 1928 【書庫 SA15/シ/】
- ・ 『青淵渋沢栄一：思想と行動』 明石照男／編 渋沢青淵記念財団竜門社 1951 【公開 SA04/セ/】
- ・ 『青淵先生訓話集』 渋沢栄一／[著] 竜門社／編 竜門社 1982 【書庫 SA04/シ/】
- ・ 『青淵百話：乾』 渋沢栄一／著 国書刊行会 1986 【公開 SA04/セ/】
- ・ 『青淵百話：坤』 渋沢栄一／著 国書刊行会 1986 【公開 SA04/セ/】
- ・ 『成功する「心の習慣」』 渋沢栄一／著 三笠書房 1997 【公開 B159/セ/】
- ・ 『つねに刺激を出し続ける人になれ！』 渋沢栄一／著 三笠書房 1991 【公開 SA15/ツ/】
- ・ 『評伝・渋沢栄一』 藤井賢三郎／著 水曜社 1992 【書庫 289.1/シ/】
- ・ 『論語を活かす』 渋沢栄一／著 明德出版社 1998 【公開 123.83/ロ/】

- ・『論語講義：1～7』 渋沢栄一／〔著〕 講談社 1977 【書庫 B123.8/ツ/】
- ・『論語と算盤』 渋沢栄一／述 梶山彬／編 国書刊行会 1985 【書庫 159/ロ/】
- ・「特集 渋沢栄一に学ぶ」 『歴史研究』 43巻8号 通巻483号 pp.18-41 2001 【雑誌書庫（館内利用）】



※上記以外にも、県立図書館では渋沢栄一に関する資料を多数所蔵しております。ご希望の資料がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

### ★ 資料展示のお知らせ ★

資料展示「埼玉の偉人 渋沢栄一を知る」を開催しています。

期 間：9月8日（火）～11月26日（木）

場 所：埼玉県立熊谷図書館 2階展示スペース

※当館所蔵資料のほか、渋沢栄一記念館（深谷市）提供の写真や年表等を併せて展示しています。どうぞご覧ください。

### ★ 平成21年度県立熊谷図書館文化講座のお知らせ ★

講演会「渋沢栄一とその魅力」を開催します。

期 日：10月31日（土） 午後2時～4時（開場：午後1時30分）

場 所：埼玉県立熊谷図書館 1階集会室

講 師：渋沢栄一記念館・元館長 篠田鼎一郎 氏

定員等：50名（中学生以上・先着順）

申込方法：

埼玉県立熊谷図書館2階カウンターに直接申し込むか、電話・FAXで「氏名・連絡先」をお知らせください。



◆10月から来年5月まで、平日の開館時間が変更となります。

開館時間 9:00～19:00

\* 土日祝日はこれまでと同じく、9:00～17:00です。

